

豊かな緑で山梨の未来を創る！

ぞうえん山梨

— Landscape Yamanashi —



Special contribution

特別寄稿

時代の潮流・公民連携からの造園事業展望

～パートナーシップで育み活かす～

東京農業大学名誉教授 蓑茂 壽太郎氏



(一社)山梨県造園建設業協会 山梨県造園建設業協同組合

CONTENTS

- 会長・理事長あいさつ P03
- 定時社員総会 P03
- 特別寄稿 時代の潮流・公民連携からの造園事業展望 P04
 パートナーシップで育み活かす 蓑茂 壽太郎氏
- 協会の動き P09
- 日造協山梨県支部の活動 P09
- 技術委員会の活動 P10
- 表彰 P10
- 事業委員会の活動 P11
- 青年部の活動 P11
- 全国都市緑化かわさきフェア視察記 P12
- 組合の事業 P14

表紙の解説

左上：県立八ヶ岳自然ふれあいセンター（北杜市）
 自然歩道「富士山とせせらぎの小径」にある 2024 年 3 月にリニューアルしたテラス

左下：甲府工業高校出前講座（甲府市）
 シュロ縄を使って「いぼ結び」で竹を結ぶ生徒たち

右上：一宮中学校出前講座（笛吹市）
 鋸を使う力の入れ加減を体験しながら枝を切る生徒たち

右下：甲府工業高校正面入り口（甲府市）
 鮮やかなカエデと石碑を囲む建築科 2 年生が製作した四つ目垣



一般社団法人 山梨県造園建設業協会
山梨県造園建設業協同組合
会長・理事長 依田 忠

日頃より（一社）山梨県造園建設業協会及び山梨県造園建設業協同組合の活動に各段のご支援ご協力を賜り、衷心より御礼申し上げます。

当協会においては、急速な高齢化や若者離れが進む中、造園建設業界の健全な発展と若手技術者の造園技術力を強化するための取組など各種の活動を行っております。昨年は、県内2校の中・高校で造園建設業を紹介する出前講座を開催し、生徒たちからは好意的な感触を得ました。また、建設まつり・林業まつりへの出展も含めこのようなイベントの状況をホームページやfacebookに掲載し、多くの方に知っていただくよう努めています。今後も「建設産業担い手確保・育成産学官連携会議」の一員として、担い手確保に繋がる活動を進めて参ります。

また、緑があふれ潤いと品格がある地域の景観づくりを進めるために、道路・公園の景観づくりを始め街路樹診断や老木等の撤去・更新による美しい街路樹の街並み創出に貢献していきたいと考えております。昨年に続き街路樹剪定士新規研修会・認定試験を県担当者の視察参加のもと開催し、また中北建設事務所管内の県道2路線で美しい街路樹の見本剪定を行うなど、景観づくりを進める認識が深まるように努めていきます。

昨年1月には能登半島地震が発生し、8月は南海トラフ地震臨時情報が発令されました。大規模災害に対する備えの重要性を改めて痛感したところです。当協会も災害時に必要となる防災資機材の保有状況と緊急時の組織体制を再確認しましたが、これからも災害に強い強靱な県土づくりに貢献していく所存です。

一方組合活動においては、指定管理者として県立武田の杜保健休養林の管理運営を行なっています。サービスセンターでは森林を活用し心身の健康の維持・増進を図る森林セラピーツアーの開催や炭を焼く集いなどの自然体験型イベントや史跡ウォークなど甲武信ユネスコエコパークの啓発イベントを実施しました。また鳥獣センターでは傷病鳥獣の保護や野生鳥獣写真コンクールなど野生鳥獣の生態への理解を深める事業を実施しました。さらに、本年5月には、健康の森内に初心者やファミリーも楽しめるマウンテンバイクエリアがオープンしました。自然を親しみ共生していく事業とともに、今後、森林レクリエーション事業への期待がますます高まっていくと感じています。

県の委託事業である「緑の普及啓発事業」では、県内各地で緑の教室を開催し、身近な場所で緑化に関する学習機会を提供し、楽しみながら緑の重要性と緑化の意義を学んでいただきました。

今後も造園建設業が地域に根差した産業として立ち位置を明確にし、災害時には、山梨県との防災協定に基づき地域の守り手として円滑な復旧活動に協力して参ります。

また、造園建設業は建設業の中で唯一生き物を扱う業種です。緑を通して県民に安全と安心、安らぎと交流の場を提供していくことが必要とされている中であって、緑溢れる持続可能な山梨の構築に貢献して参ります。

令和6年5月28日、造園建設業会館において、第12回定時社員総会が開催されました。来賓として出席した長崎幸太郎山梨県知事、山梨県議会土木森林環境委員会 桐原 正仁委員長よりご祝辞を頂いた後議事に移り、令和5年度決算について承認され、続いて令和5年度事業報告、令和6年度事業計画及び収支予算について了承されました。なお造園事業功労者表彰では、(株)富士グリーンテック・伊藤 文昭氏、(有)荻野造園・駒井 大地氏の2氏が表彰されました。



農学博士 RLA フェロー
東京農業大学名誉教授
熊本県立大学名誉フェロー
横浜花博 2027 日本政府苑チーフディレクター
日比谷公園ガーデニングショー実行委員会委員長
国土交通省 ガーデンツーリズム登録審査委員長

みのも としたろう
衰茂 壽太郎

1. はじめに

『ぞうえん山梨』への寄稿も3度目となった。何を話題とするかを考える中で「公民連携」が頭に浮かんだ。私は、これからは「行政が担う公共から市民が担う公共へ」移行するだろう、つまり公共性が鍵であるまちづくり、地域づくりにおいて、その主体は公だけでなく民もその一翼を担い、相互に連携することになるはずである。これを予想に止めず先へ進める。そうでないと成熟社会での持続可能な公共、つまり公共サービスの水準を維持することが出来ないし、ましてや向上は難しい。さらに公共財の保守管理すら継続できなくなる。この対応は、行政の側と市民並びに民間の双方で準備していく必要がある。その心得はこうである。公民連携や官民連携においては、片方だけの論理や主張では良い結果にならない。相互理解を根底に、相利共生・WIN-WIN でないと達成できない。このことが共通理解となることを期待し以降の記述を進めたい。

2. 主体間連携から政策間連携まで

公共造園に係る業界の関心は、今どこにあるのだろうか。これまで以上に裾野を広げ、その的を探す必要があるように思う。これまでは成長社会での造園業であった。しかしこれからは成熟社会での造園業、これは従来とは全く違う環境下に置かれることになる。超高齢化で少子化による生産人口の減少は確実で、特に地方ではこれが顕著である。これを前提に「豊かさを維持し安定した社会」にして行かなければならない。その時、「公民連携」のキーワードが造園業界にも欠かせないというのが本稿の着眼点である。

戦後の復興から半世紀以上を成長社会として歩んできたことで、様々な公共インフラが整備され蓄積された。公園や街路樹等の都市造園ストックがその一つで、今後は「造り増やす」を一旦休止して「育み調える」マネジメントに舵を切ることになろう。この「育み調える」仕事をしばらく続けると、人間の本性である向上心から「再デザイン・再整備」の欲求が社会全体に芽生えてきて、造り直しの明日が見えてくる。従来の公共造園事業は、その建設整備に始まり管理運営まで、広域自治体である都道府県や基礎自治体の市町村、そして国政府が「唯一の主体」となり、民間への仕様発注で進められてきた。しかし最近、これが個別分割でなく、しかも性能発注である包括的業務に移行してきている。ここには大きなパラダイムチェンジが見られ、市民協働はもとより、NPO や造園企業等も一緒になって、収益事業を含む形で経営概念を正面に据えての「公の施設の管理運営」である。その具体は公民連携の枠組みの下での指定管理者制度であり、公募型設置管理許可の Park - PFI である。そしてこれに止まらず、公の施設の運営権を民間に委ねるコンセッション方式の動きにもなっている。その背景にあるのは何だろうか。少子化と超高齢化社会の到来による民生費の高まりからの財政運営上の危機である。国や自治体の財政が切迫していることである。これが公共財の維持管理と更新に及んできていて、公共の全てを行政・公が担うのではなく、その何割かを民が担う時代になってきている。その割合は公9に対し民1かもしれないし、大きく逆転して2対8になるかもしれない。この時、ストックの維持管理を消極的に捉えるのは良くない。むしろ、これを契機に積極的管理運営に切り替え、地方自治体にとっての最大の課題である地域活性化方策へと結びつけることである。そのポジティブマネジメントで鍵となる一つに主体間連携、すなわち公と民の異なる組織がパートナーシップを旨に連携することである。これが上手くいった暁には、政策間連携がごく自然に構想され、これへの挑戦が当然となる。

環境と経済、農業と福祉、健康と交通等、これまでは個別だった政策をより紐状に束ねる。二つの加算以上に乗算値となってシナジー（相乗）効果が見えるように人間の英知を結集することである。

最近話題のライドシェアにも官民連携の匂いがし、能登半島地震の緊急対応では、消防と警察、そして自衛隊の三つの組織間連携の課題が指摘された。そうしたこともあって、世間では公民連携などの主体間連携、農福連携などの政策間連携に大きな関心が集まってきている。去る10月1日に発足した東京科学大学は、東京工業大学と東京医科歯科大学との医工連携で誕生した新大学である。

3. 連携の大義はパートナーシップ

ここで連携の基本を確認しておく必要がある。連絡を密にして手を携えてやるのが連携で、同音語の連係は、野球のプレーで解るように、一人単独でなく二人以上の複数が夫々の役割を果し、繋がることにより顕著な効果が表れる様である。この二つのレンケイを意識したい。比較的早かった連携の使用は高大連携である。私がまだ現役の大学教員の頃だから四半世紀前になる。高校と大学がパートナーシップ精神豊かに、相互協力の下で人材養成に向かう使命で誕生し、順次一定の方式が確立して高大接続教育として普及して行った。その後、初代理事長として就任した公立大学法人熊本県立大学では、「地域に生きる」公立大学の使命に鑑み、自治体や地元企業等との連携に努めた。協力講座や包括協定の締結を進めることで、大学の知的資源を自治体や企業等に活用してもらおう仕組みとした。この役職を6年の任期満了まで務め、熊本県立大学に社会人専門家の学び直し・学び直しの場となる「CPDセンター」を置き土産とした。続いて就任した一般財団法人公園財団では、人材の「養成と育成の連携」を強く意識することになった。定められた入学・修学・卒業の3つのポリシーに基づく「養成」と、社会が必要とする職能人に育てる「育成」の意義を明確にした。養成は大学等での専門教育の任務、これを終えた人を迎え入れた企業等は育成の任務を受け持つ。この「養成と育成の連携」がこれからは重要であることを強調した。近年の求人側の悩みに「3年離職」があると耳にする。新規採用者が3年もしない内に退職してしまう現象である。要因は色々あろうが、その一つに求人側に新卒者を育成する体制が整っていないことがある。仕事をしながらのOJTだけでは無理が感じられる。実務社会で有用な専門家に育て上げる養成から育成への連携文化を醸成することである。私自身が人材を送り出す側と受け入れる側の双方を経験して初めて気づいた「連携の必要性」であり、大変貴重な効果実証の機会になった。

公民連携も官民連携も共に「公共サービス提供の枠組み・スキーム」の一つである。前者が民間主導であるのに対して、後者は行政主導である。若干の違いはあるがパートナーシップ精神が共に不可欠なことに変わりない。公民連携の先駆けは、1992年に財政再建下のイギリスでサッチャー政権が公共工事に民間 Private 資金 Finance 主導 Initiative を意味する PFI を導入したことに始まる。日本でも平成11(1999)年に「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の推進に関する法律」が制定され、小泉純一郎政権下(2001.4 - 2006.9)で大きく動き、公民連携の流れが出来た。その後、PFIに加えPPP（パブリック（P）とプライベート（P）のパートナーシップ（P））として社会全体に広がり、公共部門への民間活力の導入の大義となった。概して連携の要点は、互いの目線が合っているかどうかであり、これが共創や協業の備えでないと意味がない。基本は相互理解であることから対話が重要になる。伝統的傾向かもしれないが、あまり行政が得意でないのがこの対話だ。先記したように連携そのものが相利共生の性格を要する。くれぐれも片方を食物にする片利共生は慎みたいものである。経費節減のみで走る傾向が無いでもなく、費用対効果の最大化で公共サービスの質の向上が最大の目的であることを確認しておきたい。

4. 山梨県下の公園緑地を概観し二つの展望

山梨県は豊かな森林に恵まれた県土で、この中に12の都市計画区域が分布して、そこに県人口80万人の87%が生活している。甲府盆地一帯には、人口18万人の県都甲府市があり、甲府都市計画区域をはじめ7つの都市計画区域が広がっている。日本列島には140近くの盆地があるが、その中でも有数の甲府盆地を取り囲んだ白根三山などの山々、これに富士山の風景も合わさって他の森林県とはまた趣を異にしている。このほかに上野原、大月、都留、富士北麓の都市計画区域が県東に、そして県南には身延都市計画区域がある。多くの県民が暮らす都市域は長閑な田園地帯と里山を抱き、表現を変えるならポリセントリック・多中心状に人が住まう県土構造となっている。これが山梨県域の特徴である。

12の違った都市計画区域を中心に、都市施設としての公園緑地や主要な道路に街路樹が設えられている。県下に分布する10～50ha規模の中核的な公園は、スポーツ系、農林産業系、文化芸術系と多様で、これらには指定管理者制度が導入され公民連携が既に始まっている。

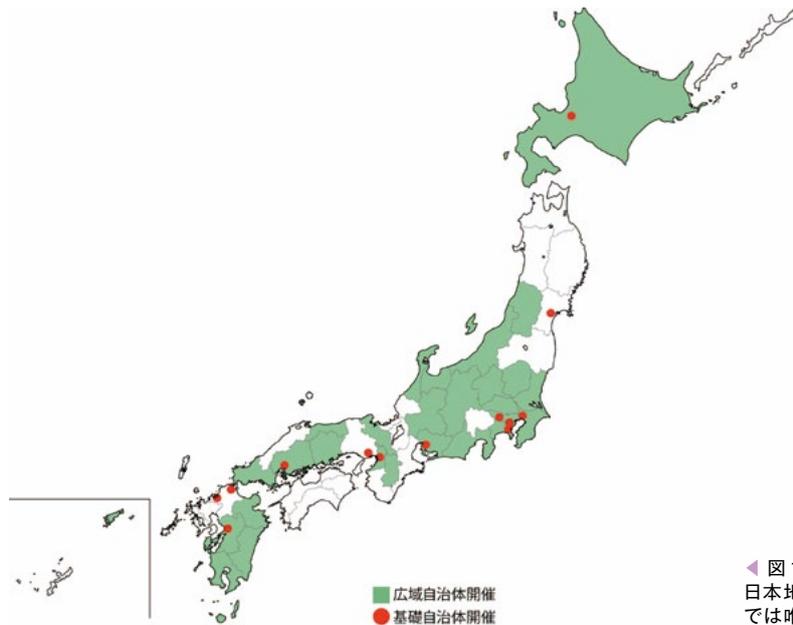
そこで協会活動の今後のヒントともなろう展望を紙面の範囲で述べておきたい。

5. 展望1：身近な小公園の管理運営をウエルビーイングの舞台に

都市公園等整備緊急措置法(1972)に基づく都市公園等整備五箇年計画が昭和47(1972)年の第一次から30年間続いた。結果として、全国に11万か所の公園が分布する国土になった。この全国値に対し山梨県の都市公園を点検してみよう。国土交通省(都市局公園緑地・景観課)が提供する行政資料の一つに年度末集計の都道府県別都市公園統計がある。この令和4年度末の値で見ると、公園数は210カ所で総面積は805.1ha、一人当たり公園面積は11.4㎡である。一人当たり公園面積は全国値の10.8㎡を上回っているものの、公園数210は48都道府県中最少で、佐賀県の263カ所、香川県の267と並ぶ現状である。

全国ベースの話に戻そう。全国11万余の都市公園、その特徴は85%以上が小公園であることだ。大規模公園や都市基幹公園レベルの公園は指定管理者制度やPark-PFI制度を活用して公民連携が相当進んできている。しかし、住区基幹公園と分類される身近に存在する街区公園等については東京の府中市など限られた都市で、複数の公園を束ねた指定管理者制度導入が見られるものの、公民連携はあまり進んでいない。指定管理者制度も20年が経過し、Park-PFI制度は5年を超えた時点であるので、身近な小公園について公民連携の成果を如何に上げるかを考える時点であり、造園界にとっては課題であり取組む価値があるテーマだと思う。そこで取り組みの方向を一つ指摘してみたい。

キーワードはウエルビーイングとコミュニティ・イニシアティブである。そもそもWHO憲章で健康の規定として使用されたWell-beingは、肉体的、精神的そして社会的と3つの健康性すべてが整った状況と解されている。肉体的は体を動かし、精神的は頭を動かし、社会的は心を動かすことで健康が保たれると私は理解している。そうであるなら、ウエルビーイングの舞台として身近な公園の管理運営・マネジメントを位置づけることはできないか。公園での交流を通じ心・頭・体の健康の全体最適化を図る仕組みを構築するのはどうか。山梨県下の造園企業が市民協働で取り組むコミュニティ・イニシアティブYAMANASHIモデルが実現できたら素晴らしい。具体的にどうするかの一つが、緑の地域づくりのエポックメーキングとなるイベントの招致にある。関東一円において全国都市緑化フェアを未開催なのは山梨だけであることから、ぜひ令和年代の相応しい公民連携豊かなフェアを企画構想していただきたい(図1参照)。



◀ 図1
日本地図に全国都市緑化フェア開催地を落してみた。関東では唯一山梨県下が未開催であることがわかった

6. 展望2：公民連携での街路樹管理をカーボンニュートラルの一助として

昭和50(1975)年代に都市緑化推進計画の政策が始まって、全国各地で緑の倍増や三倍増計画による緑化事業が大々的に展開されるようになった。この事業では公有地における緑化推進と民有地緑化が並行して進められ、前者では都市公園整備と並んで学校緑化や道路緑化が、後者では住宅地緑化と並んで工場等の事業所緑化が進んだ。そうした中では学校緑化コンクールや工場緑化コンクールなども展開された。そうした緑化事業も半世紀近くの歴史となり、最近では従来とは違った新しいステージを迎えているように感じる。これには単なる量の緑化ではなく質的な新傾向である。また課題としては成長しすぎた樹木の存在であり、老木化や不十分な管理がもたらした危険木の指摘である。山梨県下に樹種数にして30種、約12000本の街路樹があり、管理されている。そこでこの街路樹の管理について公民連携を如何に進めるかについて考えてみたい。

公という行政の主体と民という造園企業との街路樹に係る二つの主体が有機的に連携することの意義を考える。単に県等の行政から業務発注を受けての管理作業だけではない新しい方向に向かう。人間と同じ生物である街路樹の気持ちに寄り添うことである。すくすくと健康でいて道路を通行する人や車、そして沿道で生活する人に親しみを持ってもらう方向を目指す。そのために行政は何をやり造園企業は何をするかを同じテーブルで考えることにしたい、従来の甲乙の業務契約ではない新しい方向が考えられないか。単年度契約だった街路樹管理を複数年度管理にすると自然と愛情が沸いてくるのは良く知られること。仕様発注だったものを包括的な性能発注に切り替えるとプロの力量が発揮できる。そのためには、まず連携協定を公民で結び協働の体制を構築する。山梨県造園建設業協会は、山梨県と平成21(2009)年9月に「災害時における資機材提供等の支援協力に関する協定書」を交わしている。これは15年前に敷かれた先駆的道筋として評価したい。まちづくりの4要素の一つ安全性に係る連携である。加えて、快適性や保健性そして効率性の3つについても連携協定を結ぶことを提案したい。その企画の余地は十分ある。そしてこれを協定から協業に進化させ公共サービスの質の向上に挑戦したらどうだろう。行政にとっては、EBPM(Evidence Based Policy Making)として根拠となる証拠データに基づく政策立案が定着してきている。都市公園や街路樹の管理等に携わる造園業界としても都市樹木のCO2固定量を算定する研究が進められて良い。背景には、炭素実質排出ゼロが必要な地球の現状からだ。森林は二酸化炭素を吸収し蓄積していることで温室効果ガスであるCO2の固定に役立っている。森林の二酸化

炭素吸収量認証制度も一般化してきたが、なかなか市民県民国民の自分事になっていない。二酸化炭素の吸収源としての森林の評価を身近で感じ、木造建築での資源循環を含め、樹木の循環利用についても理解が進むようにする。それには公園や街路樹として身近に存在する樹木を通じ、あらたな政策展開が必要なことを社会発信する。大気中の二酸化炭素を吸収し、光合成により樹体内にCO₂を固定することで成長していることを、日常の中で学び考える。樹木の生長量から二酸化炭素の吸収量を推定することが可能であるのでこれを学び考える機能を公園や街路樹に持たせる。樹齢により二酸化炭素の吸収量は違うという知見もあり、樹齢20ないしは30年生くらいが最も高く、45年生くらいから急激に低下するという研究も見られる。京都議定書(1997)以降、特に注目されるようになったのがカーボンニュートラルで、技術革新・イノベーションも一つの方策だが、より基本的で不易の知見も導入し、広範な取り組みが重要と言え、そのミッションドライブを試みたい。成長する樹木の抑制管理と計画更新がカーボンニュートラルに効果的であることを広く周知することで植栽地管理の本当のあり方を皆で共有できたらと思う(写真参照)。



▲ 写真1、2

甲府盆地ならではの四周に山並みが巡る風景その森林がCO₂を吸収固定し、カーボンニュートラルに貢献しているそのことを駅前の大ケヤキや街路樹を通して市民に伝えるのはどうだろうこれも地球温暖化防止の一役であることを。

7. 結びに 公共サービスの質の向上と造園界の今日的課題解決を公民連携で

造園や造園学、造園産業や造園行政が今後も続くかどうかについては、読者の多くが関心を持つところであろう。まとめて造園SX(サステナビリティ・トランスフォーメーション)と表現して皆でこれを考える時でもある。「持続する造園」が担保されないと地域は荒廃する。造園業をまちのガーデナー、国土のレンジャーとすることが重要だ。これも念頭に、日本の国土のカタチを調える公民連携の可能性を考えたい。「行政が担う公共から市民が担う公共へ」の準備として。コミュニティ・イニシアティブ・地域住民主導と並んで、カーボンニュートラルを造園業と関りで考える叩き台を示した。大資本が無くて小さな資本の投入で社会を変えることができる。小公園も街路樹も社会的価値の最大化に繋がらないと意味がない。脱炭素とエネルギー問題の同時解決に結びつくような政策に一石を投じる覚悟で。造園の仕事を通じた造園業からのパッケージとして、これからの公民連携の選択肢を提案するのはどうだろう。発注側と受注側のパートナーシップは幾らでもどこにでも探し当てられる。受注者と発注者の双方の負担を最小にして、費用に対する価値の最大化を社会的価値として見える化できる公共調達の仕事にするのも一つだと思う。

◆ 建設業合同企業説明会

7月11日、ベルクラシック甲府にて去年に引き続き4度目のブース設置、協会員4名が参加。建設業に関心を持つ県内の高校生へ向けて、造園建設業の果たす役割、仕事内容や魅力を伝え、31社の協会企業を周知する良い機会となりました。



◆ 関東甲信造園建設業協議会

9月27日、長野市・ホテル国際21にて、長野県造園建設業協会主催による「令和6年度関東甲信造園建設業協議会」が開催され、山梨県からは依田会長以下7名、1都8県の造園協会関係者を含め計55名が参加しました。戸隠中社・奥社・参道の杉並木を視察した後、「造園の発展、地位向上に向けて何をなすべきか」をテーマに各県ごとに発表し、協議をしました。また懇親会では、阿部 守一長野県知事からご祝辞をいただきました。



◆ 建設まつり

9月23日、甲府市アイメッセ山梨にて。第7回建設まつりに協会員4名が参加。多くの方に花と緑に親んでもらえるように、子供向け体験イベントとして苔玉作り教室を催し、同時に日造協「造園フェスティバル」として花の種とチラシを配りました。



◆ 国交省甲府河川国道事務所との意見交換会

3月18日、国交省・甲府河川国道事務所と意見交換会を開催、Webにより副所長以下7名、日造協山梨県支部からは造園建設業会館に役員他国道の緑地管理担当者を含め13名が参加しました。ハイブリッド会議での意見交換会は今年で3年目となります。資材価格の高騰、人件費の上昇や、2024年問題による人材不足など業界を取り巻く環境の変化を踏まえた事業量の安定的、持続的な確保など様々な議題・要望について意見が交わされました。

◆ (一社) 日本造園建設業協会本部との交流会

10月10日、オークラ千葉ホテルにて開催された「本部との交流会」に依田支部長以下3名が参加し、関東甲信総支部1都8県、本部の計42名にて協議しました。千葉公園を視察した後、総支部発表では群馬県支部が除草対策として「成長抑制剤散布」への取り組みを発表し、意見交換会では総支部・各支部の現状と課題を話し合いました。


Shirasaki Corporation
 防草シートを使った緑化や頑固な雑草に
 お悩みの方は1度ご相談下さい！
 自然と人間（みんな）が一緒に幸せになる仕事
株式会社 白崎コーポレーション
 〒916-0076
 福井県鯖江市石生谷町 11-23
 TEL.0778-42-8353 FAX.0778-42-8515

Shinyo 建設機械レンタル・販売・修理
 足場施工
信陽機材リース販売株式会社
 日本建設機械レンタル協会
 〒409-3852
 山梨県中巨摩郡昭和町飯喰 1224-1
 TEL(055)275-7411 FAX(055)275-7413
 URL <http://www.shinyo-l.com>



甲府工業建築科2年生出張出前講座

11月18日、今年で2回目となる県立甲府工業高校出張出前講座を開催しました。昨年度は建築科3年生を対象に卒業制作のための講習会を行いました。今年度は2年生を対象に、4校時に座学にて造園建設業の概要と安全を伝え、その後5・6校時で垣根製作、剪定作業体験の実習を行い、将来の職業の選択肢の一つとなるように造園建設業の魅力を伝えました。

座学では造園建設業の概要と若手技術者のインタビューをビデオで紹介、スライドで私たちが実際に行っている作業の説明、さらに美しい景観や生態系を保全するエコロジカルな技術である「レインガーデン」を紹介し、最後に建設工事における安全の大切さの説明を行いました。

実習では校舎入り口に造園の技法を用いた四つ目垣の製作と、高所作業車を使用して校内のシンボルツリーであるクスノキの剪定作業体験を行いました。

垣根製作は、竹の打ち付けから、四つ目垣の竹と竹の結束部分をシュロ縄で「いぼ結び」という結び方で結束しました。造園でよく使われる「いぼ結び」は生徒に事前に竹とシュロ縄を渡して、結び方を予習していたのでスムーズに製作を進めることができました。

剪定実習は、高所作業車に生徒と協会員が乗り、樹木の最頂部まで近づき、実際の枯れた枝と生きている枝の差を見てもらいました。

最後に今回の出張出前講座では甲府工業高校の皆さん、高所作業車を提供していただきました甲陽建機リース(株)様にこの場を借りてお礼を申し上げます。今回の出張出前講座を通して「みどり」に興味を持ってもらえる機会になれば幸いです。



出前講座の動画 ▶

(一社)日本造園建設業協会 会長賞(業績表彰)

甲南緑化(株) 代表取締役 岩田 めぐみ氏

当協会会員である岩田 めぐみ氏は、令和6年6月24日に日本造園建設業協会から、氏の長年の業績が高く評価され、会長賞を受賞しました。



(株)石和植木
代表取締役
齋藤 正隆氏

山梨県環境緑化功労賞

当協会会員である齋藤正隆氏は令和6年10月19日に小瀬スポーツ公園で開催された林業まつり記念式典において、環境緑化推進の功績が高く評価され、長崎幸太郎知事から表彰されました。



竹材・木材・石材販売
笠井造園資材 有限会社

〒409-3866
山梨県中巨摩郡昭和町西条2461-5
TEL:055-275-2842 FAX:055-275-5554

一般のお客様にも建機レンタル及び販売を致しております!

<http://www.kouyo.jp/>

街のどこかにKKL

AKT/O グループ

甲陽建機リース株式会社

本社 ●〒400-0815 山梨県甲府市国玉町797 TEL055-237-7801
リース事業部 ●〒400-0815 山梨県甲府市国玉町797 TEL055-237-7821
葦崎ハウス工業 ●〒407-0033 山梨県葦崎市竜岡町下条南側591 TEL0551-21-2302
営業所 ●甲府・塩山・葦崎・身延・吉田・大月・竜王・甲西センター

一宮中学校出前講座

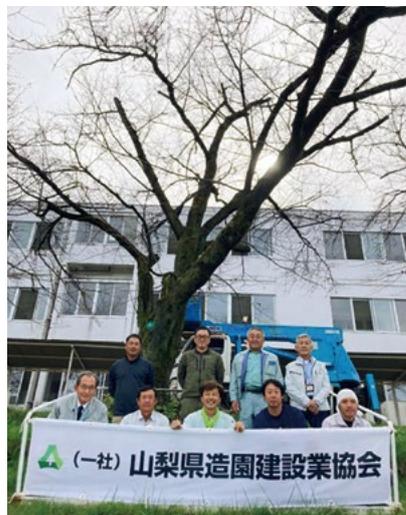
本事業は「やまなし建設産業担い手確保・育成アクションプラン」に参画し、小中学校に対する出前講座を開催することにより、造園建設業の魅力を山梨の子供たちに伝えることを目的としています。

今年度は応募のあった笛吹市立一宮中学校にて令和6年10月31日に開催しました。2年生64名を対象に授業の5・6校時を利用し、座学と剪定作業の見学・体験を行いました。

座学では、「宇宙のチョットおもしろい^{はなし}噺」と題して地球の誕生から植物・動物（人間）の誕生・進化までの45億年という年数をグラウンドに巻き尺で設定した45mの長さに換算してそれぞれの年代での出来事を伝えました。

見学・体験では、まず協会員がサクラ2本の支障枝剪定をする作業風景を見学してもらいながら剪定方法を説明し、次に生徒が実際に^{のこぎり}鋸を使って枝の切断をしたり、高所作業車へ搭乗し高木剪定の高さを体験してもらいました。

初めての体験という子供たちが多くみんな楽しそうに講座を受けていました。今回の体験を機に、将来就職を考えたとき山梨の造園建設業という職業が選択肢の一つになってくれればと思っています。



▲ 集合写真



▲ 座学「宇宙のチョットおもしろい噺」



▲ 高所作業車体験

◆ 甲府市緑化まつり

5月19日、緑が丘スポーツ公園にて開催された甲府市緑化まつりに部員14名が参加しました。高所作業車の体験コーナーを設け、多くの子供たちに体験してもらいました。



◆ やまなしクリーンキャンペーン

9月30日、甲府駅前にてやまなしクリーンキャンペーンを開催し部員12名が参加しました。花の種と緑化PRチラシの配布を行いました。



◆ 山梨県林業まつり～森林フェスティバル～

10月19日、小瀬スポーツ公園にて開催された山梨県林業まつりに部員9名が参加しました。芝刈り機の展示、緑の相談所の窓口開設や樹木の販売、花の種と緑化PRチラシの配布を行いました。



◆ 令和6年度青年部通常総会

7月4日、造園建設業会館にて通常総会を開催しました。令和5年度の活動を報告し、今後の活動方針について協議しました。

◆ 研修旅行

11月9日10日、川崎市で開催された全国都市緑化かわさきフェア視察に部員10名が参加しました。様々な緑化技術と川崎市の緑化への取り組みを学び、有意義な機会となりました。

川崎市は南北に細長く、人口は150万人。かわさきフェアは昨年10月19日～11月17日までの秋期・今年3月22日～4月13日の春期の2期開催。場所は川崎区の富士見公園をメイン会場とし、ほか中原区等々力緑地、多摩区生田緑地の3会場でした。

11月8日理事ほか8名が視察研修に、15日～17日事務局1名がボランティアに参加しました。

富士見会場へは川崎駅より徒歩16分。JR川崎駅の改札を出ると構内にフェアPRがあちこちにあり、会場への案内表示も分かりやすく続いていました。国道132号線のイチョウ並木は気持ちよく整っていて、その樹木に貼ってある愛嬌のある瞳と吹き出しを追い、市役所通り沿いに並んだパークレット作品を眺め、最後に歩道橋路面部の一部芝生化実験におどろくと、16分間を飽きることなく会場へ到着しました。

富士見公園は1940年(昭和15年)に開園した川崎市で一番古い都市公園で、数年にわたり大規模な再編整備工事が行われていましたが、「全国都市緑化かわさきフェア」開催に合わせて10月19日にリニューアルオープンしました。

工場地帯をモチーフにした無機質なオブジェに飾られたエントランスゲートから会場へと進むと一面にメインガーデンが広がります。洗練された華やかな雰囲気を感じられました。開催から1ヵ月が経過しても花が非常にきれいな状態に保たれ、秋開催の緑化フェアは初めて訪れましたが、秋は花も徒長しづらくお行儀よく満開の花を長く咲かせる利点がありました。また地元の造園業者2名と植栽管理のボランティア6名が会期中毎日花の手入れをし、植栽管理ボランティアの出席率は100%に近いとのこと。造園業者に剪定の知識を学びながら手際よく手入れをします。チームワークも



▲ メインガーデン



▲ 植栽管理ボランティア

よく、ボランティアの中には「(造園業者の)〇〇さんがいるならまた春期もボランティアにきます」という声も聞こえ、市民とともに会場を盛り上げているのも会場全体の雰囲気が良い理由かと感じました。

整備工事したインターロッキングの舗道はどこを歩いても心地よく、フェア展示物も映え、多くの人が見学しています。都市の狭い空間での緑化にフォーカスし、川崎スタジアム壁一面の壁面緑化や色々な方式の垂直花壇の提案も飾られていました。

毎年緑化フェアで行われる庭園コンテストでも「みどりのベランダ部門」ではベランダの小さなスペースに花や緑を楽しむ工夫をテーマとして、洗濯物が干してある作品もありました。「みどりのワークスペース部門」では小空間を活用した緑と共存するワークスペースの提案をテーマとし、秘密基地といった作品など、コンテストの切り口が面白く感じました。家族連れ、犬をつれた人、介護施設の高齢者など多くの人が散歩し、芝生広場、遊びの広場にも親子連れ、こども園の幼児、学生、仕事の合間に、たくさんの人が会場を楽しんでいました。

市民の方に話を聞くと「川崎ってイメージが悪いかもしれないけどとても住みやすい街、明るくきれいになって嬉しい」とのこと、また別の方からは

緑のリサイクル事業
株式会社
山梨環境サービス
公益社団法人 日本下水道管路管理業協会会員

〒405-0069 山梨県笛吹市一宮町東新居 1065-1
TEL/0553-47-3305 FAX/0553-47-3306
E-mail yamakan@yks-eco.co.jp
URL <https://yks-eco.co.jp/>



日立建機日本特約店(販売・サービス・製造)
国際貢献事業



山梨県南アルプス市上今諏訪564番地の1
TEL 055-282-3211 FAX 055-282-3269
<http://www.nikkenmfg.com/>



▲ 市役所通り パークレット イチョウの語りかけ



▲ 国道132号沿い

「以前の古い富士見公園からは信じられないくらい
雰囲気良くなって、緑化フェアを機に周辺の
雰囲気がガラッと変わった」と嬉しそうに話して
くれました。

等々力会場はタワーマンションで名高い武蔵小杉駅よりバスで10分ほど、Jリーグ川崎フロンターレのホームスタジアムもある中原区等々力緑地で開催。正面広場には市立小・中・特別支援学校170校で育てた花苗の協働花壇がありました。メインガーデンは五感を使って楽しむ体験・体感型のアクティブガーデン。こちらは第一印象以上に面白く、小さな子供から高校生まで楽しんでいて、作品全体の自由な感性が若く感じられました。訊くと、東京農業大学と明治大学の学生15名と企業で一から考案、作成したコラボ制作とのことで、納得でした。広場では週末毎にイベントを開催。なかでもサツマイモ博には2万人以上の来客があり、まさに芋を洗うような大盛況だったとのこと。会場にはあちこちの木陰の下にベンチが置かれ、木々の下での心地よい空間となり、皆さんがくつろいでいました。

生田会場は向ヶ丘遊園駅より徒歩13分の多摩地区生田緑地で開催。生田緑地は多摩丘陵の広大な敷地に日本民家園や美術館があり、敷地全体に草花、野鳥も多く、入り口から奥のバラ園まで一日かけてゆっくりと楽しむことができます。生田緑地を訪れたのは夕刻となっていたのですが、中央広場の奥にあるメタセコイア並木に数分おきに霧が発生する仕掛けが施され、幻想的な雰囲気とマッチしていました。シニアカーの無料試乗で会場を自由に見学でき、坂が多い会場にはうってつけだと感じました。

最後に、秋期閉会日の17日から三日間でメインガーデン花壇の花苗を3800袋無料配布し、多くの人の手に花苗が渡りました。かわさき緑化フェアの想いが皆さんへ広がっていくようで、花苗配布整理券を求めた方が「(かわさき緑化フェアに)5回も来てるの。主人と来たり、一人で来たり。これすごく良かったわ」と話してくださり、一緒に笑顔になりました。



富士見会場



等々力会場



聴覚エリア



生田会場

▲ 正面広場五感の植物エリア

▲ 聴覚エリア

▲ メタセコイア並木の霧の演出

 <p>緑化園芸機材・林業/農業機械・鳥獣害対策機器・刃物 森林アウトドア用品・薪ストーブ・薪ボイラー・除雪機 保冷库・木材加工機材・保安用品(スパイク付ブーツ等) 高压洗浄機・法定器具・キノコ菌類・食品乾燥機</p> <p>地球への愛、人への優しさ。 当社は優れた品質で社会に貢献します。</p> <h2>山梨スチール株式会社</h2> <p>〒400-0047 山梨県甲府市徳行4丁目13-5 http://www.yamanashi-stihl.co.jp TEL: 055-226-3656 info@yamanashi-stihl.co.jp</p>	<p>総合造園緑化資材、石材砂利、越後の刃物、卸販売</p> <h2>有限会社造園資材センター</h2> <p>〒400-0054 甲府市西下条町1346-1 TEL: 055-220-2553 FAX: 055-220-2554</p>
--	---

LANDSCAPE YAMANASHI

山梨県造園建設業協同組合では、現在 31 社が加入し、造園に関する様々な業務を行なっております。現在は、山梨県から指定管理者として「武田の杜保健休養林」の管理運営、緑の普及啓発事業として「緑の相談所」を受託し事業を展開しております。

武田の杜保健休養林事業

平成 26 年度より、武田の杜保健休養林の管理運営を行っており、四季を通じて自然に親しむ様々な事業を展開し、県内外から多くの皆様にご利用いただいております。令和 4 年からは、武田の杜サービスセンター内に甲武信ユネスコエコパークインフォメーションセンターが設置されるなど、武田の杜の取り組みが高く評価されるとともに、自然に親しみ共生していく事業展開への期待がますます高まっております。また、令和 6 年 5 月には、森林空間の高度活用を実現した新たな森林レクリエーションの場として、健康の森内にマウンテンバイクエリアがオープンしました。



▲ マウンテンバイク教室

今後とも実施事業の充実や適正な管理運営を行い、多くの皆様に愛され安心してご利用いただける施設にまいります。



武田の杜森林セラピー

武田の杜では、平成 25 年に森林セラピー基地に認定された良好な自然環境のもと、武田の杜森林セラピーガイドの指導による質の高い保養プログラムを提供、年間で約 300 人の方が体験しており、本年度は、12 回の森林セラピーを実施しました。

また、通常の森林セラピーツアーに加え、県農林大学校、荒川区、国際自然森林医学会、日中友好会館など 5 団体から依頼され、計 5 回開催し延べ 144 人に体験していただくなど、好評のもと実施することができました。

なかでも、国際自然森林医学会では同会会長今井通子さんが催すワークショップで、ドイツ、ポーランド、台湾などから 43 名が、また、日中友好会館では中国森林緑化局関係の 36 名が参加され森林セラピーを体験していただきました。



その他、武田の杜に登録した森林セラピーガイドによる個人企画が 5 件あり、24 名の方に体験していただきました。

野生鳥獣写真コンクール (鳥獣センター)

野生鳥獣の保護思想の普及啓発を図るために開催され、平成 9 年度から始まり、令和 5 年度で 27 回目を迎えました。

令和 5 年度は、県内はもとより全国各地から 103 名、237 点と多くの応募があり、その中から、最優秀知事賞を始め各賞が選出されました。

また、応募作品を展示する「野生鳥獣写真コンクール展示会」を、令和 6 年 5 月から約 2 か月間開催し、多くの来場者がありました。

令和 6 年度もコンクールを実施しています。



▲ 写真 最優秀知事賞「イヌワシ」
西子 鉄男

緑の相談所

旧山梨県緑化センターで行われてきた緑化相談や緑に関する研修会等ソフト事業につきまして、当組合が県から「緑の普及啓発事業」の業務委託を受け、平成 26 年度から「緑の相談所」という新たな組織を立ち上げ、県内各地で研修会の開催など県民を対象に緑の普及啓発事業を行っております。

会 社 名	代 表 者 名	住 所	電 話 番 号 / F A X	E - m a i l / U R L
(株)アセラ技建	久保田 茂樹	甲府市蓬沢町1171	055-233-4617 055-233-4633	giken@acera-jp.com
(株)石和植木	齊藤 正隆	笛吹市石和町川中島378	055-263-2070 055-262-4889	isawa@mbd.nifty.com
(株)石原グリーン建設	石原 政人	甲府市高室町269	055-241-2001 055-241-0822	office@green21.co.jp https://www.green21.co.jp
(株)雲松園	大塚 広夫	北杜市小淵沢町3630	0551-36-2432 0551-36-4128	info@unshouen.co.jp http://www.unshouen.co.jp
(有)萩野造園	萩野 陽司	甲府市伊勢四丁目1-12	055-235-4045 055-231-2020	ogino@peach.ocn.ne.jp https://www.oginozouen.com
(株)帯金造園	帯金 岩夫	甲府市池田二丁目11-12	055-251-4128 055-251-4194	office@obikane.co.jp https://www.obikane.co.jp
(株)河口湖庭園	梶原 陽一	南都留郡富士河口湖町船津4940-1	0555-72-0635 0555-72-5435	yozan@kawaguchiko.ne.jp
(有)窪田造園	窪田 司	甲斐市中下条1673	055-277-2111 055-277-8881	kubotazouen@za.wakwak.com
甲南緑化(株)	岩田 めぐみ	甲府市高室町721	055-241-6136 055-241-6135	kounan@maple.ocn.ne.jp
河野造園土木(株)	河野 嘉孝	甲府市下飯田二丁目5-27	055-222-4396 055-222-0555	info@kzd.co.jp https://kzd.co.jp
(株)三枝造園	三枝 正雄	富士吉田市松山1267-6	0555-22-1174 0555-22-2219	yamaus-zouen@tbz.t-com.ne.jp
(有)坂本造園	坂本 篤彦	韮崎市若宮二丁目9-39	0551-22-0301 0551-22-0322	sakamotozouen@bg.wakwak.com https://sakamoto-zouen.com
三協造園(株)	八木 幸彦	西八代郡市川三郷町印沢18-3	055-272-6000 055-272-7777	sankyouzouen@beetle.ocn.ne.jp
(有)サンリツ造園土木	富岡 信也	甲府市善光寺町3135	055-268-3110 055-268-3118	sanritsu-2006@topaz.plala.or.jp
(有)敷島緑化土木	石水 秀樹	甲斐市島上条1664	055-277-2530 055-277-8311	sryokkas@cronos.ocn.ne.jp https://www.shikishimaryokka.jp/
(株)芝保	藤原 辰男	甲府市貢川本町18-20	055-237-7000 055-224-5555	shib0377@peach.ocn.ne.jp https://shibaho.jp
(有)清水造園	清水 文一	甲府市里吉一丁目7-21	055-233-9748 055-233-9758	shimizu.z@sea.plala.or.jp
(有)須田造園	須田 良英	笛吹市八代町米倉729	055-265-2452 055-265-3691	suda@arion.ocn.ne.jp http://www.land-s.co.jp
中央造園土木(株)	今村 尚人	甲府市徳行一丁目9-27	055-226-4525 055-226-4573	info@chuouzouen.co.jp http://chuouzouen.co.jp
辻緑化土木(株)	辻 宏幸	甲府市朝氣三丁目3-16	055-233-9545 055-233-9542	info@tsuji28.net http://www.tsuji28.net
(株)津々美造園	堤 明伸	甲府市愛宕町146	055-253-2188 055-253-7835	tsutsumi@mx10.ttcn.ne.jp http://www.tsu2mi.com
(株)仲村造園	仲村 清輝	北杜市明野町小笠原3838	0551-25-2348 0551-25-2439	naka-la1@aurora.ocn.ne.jp
野尻造園建設(有)	野尻 広光	韮崎市穂坂町宮久保5122-2	0551-22-0615 0551-22-2531	h-nojiri@amber.plala.or.jp
富士観光開発(株)	志村 和也	南都留郡鳴沢村字富士山8545-137	0555-86-3311 0555-86-2440	kensetsu@fujikanko.co.jp http://www.fuji-net.co.jp/
富士急建設(株)	飯島 慶一	富士吉田市新西原五丁目2-1	0555-22-7151 0555-22-7153	fken@fujikyukensetsu.co.jp http://www.fujikyukensetsu.co.jp
(株)富士グリーンテック	阿部 敏明	甲府市富竹三丁目1-3	055-236-1600 055-224-5520	honsya-soumu@fujigreentech.jp http://www.fujigreentech.jp/
(有)美園造園土木	武藤 洋	甲斐市玉川1447-4	055-276-9241 055-279-8671	misono610@s2.dion.ne.jp http://www.yamanashi-machitsukuri.jp/mizonozouen/
(株)明桃園	角野 勝	南アルプス市桃園974-4		

《発行》(一社)山梨県造園建設業協会 〒400-0115 山梨県甲斐市篠原2456-4 TEL.055-279-7328 FAX.055-234-5160 《発行日》令和7年1月1日

(一社)山梨県造園建設業協会

E-mail: info@zo-en.or.jp
U R L: https://zo-en.or.jp



山梨県造園建設業協同組合

E-mail: info@y-zouen.jp
U R L: https://y-zouen.jp



Facebookで「いいね！」してね

山梨県造園協会 検索

